

第2回あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議事録

開催日時 令和3年7月6日(火) 10時から

開催場所 あべのフォルサ6階 601・602教室

出席者

- (1) あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議メンバー(五十音順)
池内、左川、城下、室崎
- (2) 消防局職員
予防部地域担当課長
予防課地域担当副課長
予防課地域担当係長
予防課地域担当

議題懇談

- (1) 前回会議の議題等について
- (2) 体験コースについて
- (3) タスカルVRについて
- (4) 展示物等について
- (5) その他

●事務局

お待たせしました。

ただいまより第2回あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議を開催させていただきます。

各メンバーの皆様におかれましては、本日お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

私は、本日進行役を務めさせていただきます。消防局予防課地域防災担当係長の住野でございます。

よろしく願いいたします。

はじめに消防局予防部地域担当課長の徳田よりあいさつ申し上げます。

●事務局

おはようございます。

ただいまご紹介にあずかりました、消防局予防部地域担当課長の徳田です。

本日はお忙しい中、早朝よりご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素は大阪市消防局の消防行政にご理解、ご協力を賜りこの場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

昨年、この「あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議」を立ち上げ、第1回目の会議を消防局で実施し、先生方から貴重なご意見をいただき、消防局としていろいろ考えてまいりました。

本日は、会議場所も現地で実施させていただくこととしました。

この後、少しの時間ですが、先生方にタスカルを見学していただいた上で会議に移っていただく運びとなっております。

会議では、昨年先生方からいただきましたご意見を基に消防局が考えた内容をご説明させていただきます。

本日は、限られた時間ではございますが、忌憚りの無いご意見、ご教示をいただきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

●事務局

本日は、議題に入る前に「あべのタスカル」の現状を見学していただきたいと思っております。

見学が終了したのち、6階の教室にて会議を進行させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

では、皆さまご移動のほどよろしくお願い申し上げます。

【施設内見学】

●事務局

それでは、ただいまより第2回「あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議」の議題に入りたいと思っております。

その前に本日は、オブザーバーとしまして、指定管理者である一般財団法人大阪消防振興協会の職員と(株)ジェイ・アクセスの職員にも会議にご出席をいただいております。

議題の中でご質問等がございましたらよろしくお願い申し上げます。

最初に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

資料1、あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議資料

資料2、令和2年度 大阪市立阿倍野防災センター事業報告書

資料3、令和3年度 大阪市立阿倍野防災センター事業計画書

資料4、現在のアンケート用紙

参考でLINEスタンプ案、スタンプカードも配付しております。

以上でございますが、不足しているものはございませんか？

それでは、議題に移らせていただきます。

議事の進行を座長よろしくお願い申し上げます。

●座長

それでは、早速議題の審議に入ります。
(1) 前回会議の議題等について、審議に入ります。
この件について、事務局より説明していただきます。

●事務局

前回会議の議題等について、ご説明をさせていただきます。

資料1の1ページをご覧ください。

前回会議の議事録を基に課題を

- ①キャラクターの活用
- ②スタンプカードの活用
- ③アンケートの活用
- ④体験コースの再検討
- ⑤リモートについて
- ⑥その他

とさせていただきます。

2ページをご覧ください。

課題への対応状況について、ご説明させていただきます。

①キャラクターの活用としまして、消防局において作成する啓発品への掲載、昨今のスマホ事情を考慮してLINEスタンプを作成し、LINEメッセージ通じて、多くの方々にあべのタスカルを知っていただくと考えております。

スタンプについては、指定管理者の事業として現在作成中です。

現在は、コロナ禍のため消防局、あべのタスカルもイベントへの参加ができておりませんが、今後イベントが開催される時期がきましたら、積極的に着ぐるみの「レスキューパンダたすける」を活用して、あべのタスカルを広報したいと考えております。

②スタンプカードの活用ですが、リニューアル前にも配付をしておりましたが、リニューアル後はカード自体のリニューアルができておりませんでしたので、今回新たにカードを作成しました。

今後、来館者に配付したいと考えております。

なお、配付については一般の来館者で幼児・児童の家族連れに配付を考えておりますが、これにつきまして、のちほど皆様にご意見をいただければと考えております。

③アンケートの活用に関しまして、前回会議でも資料として提供させていただいたアンケート集計結果を池内先生からのご提案を受けまして、摂南大学の学生さんにクロス集計により分析していただきました。

また、コロナ禍の影響により、通常の体験コースが実施できないため、現在行っております30分コースにより、来館者の皆さまからアンケートを取っております。

内容につきましては、【資料4】のとおりです。

アンケート結果については、議題(2)の体験コース等についてで、詳しくご説明させていただきます。

④体験コースの再検討についてですが、クロス集計及び現在の30分コースアンケート集計結果を踏まえて、体験コースの見直し及び企業向けコースなど新たなコースの新設等を検討しております。

こちらについても議題(2)の中で、詳しくご説明させていただきます。

⑤リモートについてですが、自宅や職場などからも「あべのタスカル」を体験していただけるよう防災体験学習エリア内を3DビューとVR(バーチャルリアリティ)でご覧いただける「タスカルVR」を公開しました。

こちらについても、議題(3)の中で、詳しくご説明させていただきます。

参考としまして、令和2年度の来館種数をまとめさせていただきましたので3ページをご覧ください。

また、4ページにはリニューアル後の来館者数を昨年度と比較しております。

コロナ禍の影響により大幅に来館者数が減少していることがよくわかります。

以上、前回会議の課題への進捗状況について、ご審議いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

●座長

それでは、事務局より説明がありましたので、皆さまのご意見をいただきます。

まずは、前回いただいた意見に事務局では一生懸命対応していただき、改善されていると思います。

これはとても重要なことで、展示などが機能しているかどうかを絶えずチェックしていくことやアドバイザー会議、来館者アンケートなどで双方向の意見を取り入れて、改善していく姿勢で立っていることが素晴らしいと思います。

作っておしまいではなく、我々の意見についてちゃんと改善していただいていると思います。

なお不十分なところもあると思っておりますので先生方、委員の皆さんご意見あればよろしくお願いいたします。

●城下

リニューアル後のスタンプカードですが、1回来ると1つ押ししてもらって5個スタンプがたまると景品がもらえるということですか。

もう結構印刷されていますよね。

●事務局

スタンプは来館1回で一つ押します。スタンプカードは今年度3,000部印刷しています。

●城下

スタンプカードの名前などにもう一工夫あればいいなと思いました。
配布される対象が子供向けということで、タスカルマスターの称号のようなものなど、もうすこし遊び心のあるものになっていてもよかったですかなと思いました。
ラインのスタンプは無料配布を予定していますか？

●事務局

ラインスタンプの言葉や配信の有料、無料につきましても、これから構想していく段階です。
一つの案としましては、体験スタンプを押せばラインスタンプがもらえるということも考えております。

●左川

スタンプカードの記念品はどういったものになっていますか。せっかくの記念品なのでお金で買えないものの方がいいなと思います。
例えばラインスタンプで1回来館ごとに5つつラインスタンプがもらえるとかでもいいと思います。
また、小さい子が家族で来られた場合は家族でスタンプカードは1枚ですか。

●事務局

現在の案としまして、物販コーナーにある記念品を組み合わせで配布するというのも考えております。
スタンプカードは家族単位で1枚と考えています。ですが小さい子が大きくなって友達と来館することもあるので、配布のルールを決めていきたいと思っております。

●座長

家族連れや子供達だけで来る場合にいくつか記念品のバリエーションを考えることは必要かもしれませんね。
ちょうどコロナ禍ですので、急いで決めずにしっかりと検討していけばいいですね。
また、たすける君というキャラクターも出来たので、どんどん活用していければいいですね。

●左川

小さいお子さんと自分のスマートフォンを持っていないので、親御さんにはラインスタンプ、小さい子にはシールなどもいいかもしれませんね。

●池内

私の大学の学生に防災センターに行くことを促してみると、面白いと思わない、行きたいと思わないなどの意見があり、その理由は勉強の施設だからとのことでした。
でも実際、防災センターに行くと、こういう学習は必要と言っています。
小中高生にとっては学校で連れて行ってもらえる、とてもいい施設という感じだけど、大学生にとってはデートで来る場所ではないからなかなか行かない。という意味だと思います。
ですが、いざ来館するとこのような防災学習が大切だと感じる学生が多い。
そういった意味でもファーストコンタクトが必要だと思いました。
SNSの活用もすごく大切で、ラインスタンプもすごくいいと思うのですが、内容が真面目過ぎて、今の提案されたものは「誰が使うのかな」と思います。
SNSは若い人向けなので、もう少しシュールな方がいいと思います。
ラインのスタンプをよく使う若い世代の人たちに文字を当ててもらった方がうまくいくと思います。

●座長

タスカルは学習施設なので、ここへきて自分の命を守る術や火の消し方を、体で覚えるもらう施設。
でもその施設にどのようにして引き込むかを考えて、そして引き込んだ人たちにどのようにして防災力をつけてもらうかを考える必要がある。
そのためには考えさせる為のプロセスが必要で、来た人たちで最後に話し合う環境や、案内しているアテンダントさんからヒントを与えることで理解が進むのかなと思います。

●城下

学校の先生へのアプローチとして、タスカルの体験学習とセットで事前学習、事後学習のモデル資料や教材の提供があると学校側は来館し易いのではないかと思います。
コース体験をしている際にアテンダントから子どもたちに声掛けはありますか。

●オブザーバー（アテンダント）

問いかけはしないが、案内をしてエリアごとに気を付けるポイントの説明はしています。

●城下

イギリスでは子供5、6人の少人数に1人のアテンダントさんをつけているところがあり、アテンダントさんがたくさん質問をすることで、考えながら学習するシステムがある。
人数を減らすことは難しいと思いますが、質問や振り返りコーナーを作ることで子供たちに考えてもらうことも大切かと思います。

●座長

ゆっくり話し合ってしまうと時間が無くなってしまいますので、アテンダントさんと議論したりする時間を中々作れないのが現状です。

いくつかコースを分けて、少人数でゆっくりしっかり回るコースと、大人数で流すコースなども考えないといけないかもしれませんね。

ですが、たくさんコースがありすぎると回すのも大変なのかなと思います。

●左川

お土産として、帰ってから家族でできる学習シートなどがあっても家族で話し合いができるかもしれないですね。

●座長

次に進めさせていただきます。

(2) 体験コースについて、事務局よりこの件について説明していただきます。

●事務局

(2) 体験コースについて、ご説明させていただきます。

資料の5ページをご覧ください。

池内先生からご提案をいただき摂南大学の学生さんにより、クロス集計によりアンケートを分析していただきました。

6ページをご覧ください。

10個の質問項目をまず単純集計したのち、クロス集計を行いました。

7ページをご覧ください。

「どのコースを体験しましたか」と「年齢」の分布となっております。体験コースは、Cコースが最も多いです。

年齢は、どの年代においても差はありませんが、60代以上というくりにすると40%以上となりました。

8ページをご覧ください。

どのコーナーがよかったかという質問で、「タスカルシアター」、「消火を学ぶ」、「震度7体験」、が人気でした。

もう一度来たいと思う方は90%でした。

9ページをご覧ください。

あべのタスカルを何で知ったかという質問で、学校の教科書や知人からの紹介が50%をしめており、SNSは1%と最も少ないことがわかりました。

体験された感想は90%以上がよかったと回答しております。

ここまでは、単純集計の結果でございます。

10ページをご覧ください。

次に10個の質問項目をこのように組み合わせをして、問題点を見えやすくしました。

11ページをご覧ください。

左の円グラフは、もう一度来たいと思った人が体験したコースの内訳です。

右のグラフは、もう一度体験したいと思わなかった人が体験したコースの内訳です。

グラフの分布に大きな違いはありませんでした。

12ページをご覧ください。

左のグラフ2回目、右のグラフ3回目以上体験した方がよかったコーナーの内訳です。

グラフの分布に大きな違いはありませんでした。

13ページをご覧ください。

Aコースを体験した人がよいと思ったコーナーで、Cコースに含まれない「救助を学ぶ」、「救護を学ぶ」が増えています。単純集計では、どちらも1%でした。

14ページをご覧ください。

Bコースを体験した人がよいと思ったコーナーで、Cコースに含まれない「救助を学ぶ」が増えています。

単純集計では、1%でした。

15ページをご覧ください。

どの年齢がもう一度来たいと思うかで、左のグラフは単純集計で右のグラフはもう一度来たいと思わない人が10代・60代で割合が多く、40代・50代割合が少なくなっており分布の違いがあります。

16ページをご覧ください。

20代が何で知ったかの分析ですが、事務所・学校・各種団体が50%であり、20代は社員研修等で知る機会が多いようで、SNSで知る機会はほとんどないことがわかります。

単純集計とクロス集計をまとめたのが17ページとなっております。

次に18ページをご覧ください。

コロナ禍の影響を受けて、昨年の6月末から現在は30分の体験コースのみを実施しており、コースの設定は、ご覧のとおりです。

今回このコースに対して、資料4でお配りした内容でアンケートを実施しました。

19ページをご覧ください。

30分の体験時間についてのアンケートです。

左のグラフでは30分がちょうどよいが圧倒的に多く、真中のグラフでも満足したが圧倒的に多いです。

右のグラフは、30分コースが短いと答えた方に体験時間の長さについて、質問したところ58%が1時間と答えました。

20 ページをご覧ください。
ここでは、もう一度来たいか、何回目かを質問しご覧の結果となりました。
また何で知ったかの質問ですが、ホームページ、知人の紹介がやや多く、その他について記入していただいた内容で最も多かったのは、学校関係でした。
具体的には、学校からの施設案内やチラシ、子どもが学校の授業を受けて行きたいと言ったなどが多く見受けられました。

21 ページをご覧ください。
どなたと来たかについては、家族が約 50%、また年齢層をみても 40 代以下が多く家族連れが多かったと考えられます。

22 ページをご覧ください。
単純集計、クロス集計及び 30 分コースのアンケート結果をコース時間・コーナー・もう一度来たいかにまとめ考察した結果、
① 体験コースは、1 時間が最もニーズが高いと考えられます。
② A・B コースでよかったコーナーの「救助を学ぶ」、「救護を学ぶ」1 時間コースの中に含まれていません。
③ もう一度来たいと思う回答は多数でしたが、クロス集計において 10 代・60 代は多世代より割合が少ない傾向がありました。
これらを踏まえ改善点としまして、体験コースの全ての見直しと、特にニーズが多い 1 時間コースを重点にして、見直しする必要があると考えます。

23 ページをご覧ください。
現状の体験コースとなっており、1 時間コースは C コースと小中学校団体向けの E コースの 2 つしかありません。
どちらのコースにも「救助を学ぶ」、「救護を学ぶ」は入っておりません。
それでは、すべての体験コースについて、確認したいと思います。

24 ページをご覧ください。
A・B コースについて、検討いたします。
A コースは、真ん中の部分「煙を学ぶ」と「津波避難を学ぶ」は、シアターによって体験を変更しておりますが、今回すべてを体験する最上級コースとしてもよいと考えます。
B コースも A コースと同様にシアターに応じて、「煙を学ぶ」と、「津波避難を学ぶ」となっておりますが、上段の避難支援・救助パターンを「煙を学ぶ」とし、下段の救護パターンを「津波避難を学ぶ」に固定して 2 コースの設定とします。

25 ページをご覧ください。
C コースは最もニーズが高いので、それぞれコンセプトを決めました。
C-1 コースは自助を学ぶ、C-2 は共助を学ぶ、C-3 は風水害を学ぶこととしました。

26 ページをご覧ください。
E コースに企業向けのコースを追加します。
企業向けとして「消火を学ぶ」は、より実践的なものを体験できるように総合訓練室にて水消火器及び屋内消火栓による放水を体験。もしくは「帰宅困難を考える」として、会社での対策を検討してもらう案です。

27 ページをご覧ください。
アンケートの自由記入の中で、シアターが怖かった、震度 7 を体験できなかった子どもさんもおられたので、幼児や低学年でも体験できるコースも考えてみました。
以上、体験コースについて、防災センター設立当初からのコンセプトである地震発生直後の街並みの中で、災害時に必要な一連の行動をわかりやすく体験、学習することができるものとしてしました。
また、成果指標でもあります「助かる力」、「助ける力が身につくような知識技術を習得することができた」と答えることができる内容に見直し案を作成いたしましたので、ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

●座長

アンケートの結果、来館者の反応を踏まえて体験コースを少し見直していこうということだと思しますので、皆さまご意見どうぞお願いします。

●池内

「津波避難を学ぶ」はどのような内容でしたか？

●事務局

マッピングです。

●池内

津波避難は時間がかかりますか。
波の映像が来て、波の高さを壁面の浸水高さで確認できるので時間がかからないですね。

●座長

タスカルのプログラムの中で一番欠けているのは、水害避難対応だと思います。
避難のプログラムをどう入れるかが課題です。
無理矢理に入れる必要はありませんが、進んだところで言うと福井県、静岡県では水の中を歩かせる等のプログラムがあります。

最初の映像、展示でカバーすることも必要ではないでしょうか。
水害避難は津波避難プログラムでの階段垂直避難でも学ぶことはできます。

●城下

アンケートの使い方について、アンケート結果でよかったというコーナーに重点を置くというのは、学習施設ということ考えると必ずしも良いとは言えないと思います。

当初はコンセプトを持って設計し、大事だと考えたはずなのでアンケート結果が良くなかったコーナーであっても大事であると思います。

また、コースの全体像が見えるとよいと思います。現在は時間にこだわった見せ方であり、Bコースだと全体のここまでできます等、全体のどの部分がカバーできるのかの位置付けが分かるとよいのではないのでしょうか。

●左川

コース案が色々できたが、コンセプトの自助、共助という名称を「たすかる力を学ぶ」、「たすける力を学ぶ」等、分かりやすい表現にした方がよいのではないのでしょうか？

体験コースのEコースで企業向けができたことについては、帰宅困難などの企業がでてくるのでよいと思います。

可能であれば、オフィスや工場での対応も考えてみればどうでしょうか？

中小企業だと避難訓練そのものをしたことがなく、どういう危険があるのかあまり意識していない。

中小企業へのアピールになるのではないかと思います。

●座長

色々なバリエーションを考えるのはご指摘の通り大切だと思います。

先ほどの学校教育と同様、(防災センターに帰ってからの)企業の中の自主防災訓練、危機管理能力をセットにし、防災訓練全体の大きな枠組みで考えることが必要だと思います。

企業の目線でどうにかせるのか、外と中の関係を含めゆっくりでいいので発展形を考えるとよいのではないのでしょうか。

ところで、コロナの最中だからかお年寄りが多い印象ですね。

●事務局

そのとおりです。

●座長

高齢者が来るのは良いことだと思います。

●左川

高齢者は誰と来ますか？

家族連れが多いですか？

●オブザーバー (アテンダント)

今は家族が多いです。コロナの前は地域の団体で来ることが多かったです。

●池内

コースを1時間半と限定する必要はあまりないのではないのでしょうか？

何を選びたいかで相談して選んでもらえばいいのではないのでしょうか。例えば、2時間プログラムの短縮バージョンであれば、別メニューとし、表に出す必要はないのではないのでしょうか。

未経験者が内容を見て事前に選ぶ、は難しいと思います。

何を学べるかを重点化する項目で名前をつける等とし、かかる時間で並べない方がよいと思います。

例えば、Bコースは「お手軽コース」等。

選ぶ人が選びやすいようにした方がよいと思います。

1時間コースは何が学びたいかで、特だしにして選べるようにするのがよいと思います。

●座長

来たグループにコースを選んでもらう、何がしたいかを聞くということですね。

無理矢理にコースを用意するのではなく、希望を組み入れるやり方もいいのかもしれないですね。

池内先生の意見は今まで無かった意見なので検討していただきたいと思います。

まだ動き出したばかりなので、この体験コースはだめだと決めないでほしいです。

また、個人的には救助、煙体験のコースはすごく大切ですが、あまりやってないのではないのでしょうか。売りになるので嫌いという人でもやってもらいたいです。

●城下

池内先生が言われたこととも関わりますが、コースの中身がパッとわかりません。

パンフレットもひとことぐらい書いてあるぐらいです。

学校側に事前に内容がしっかりと見えている方がよいと思います。

来てから楽しんでほしいという考え方もあるとは思いますが、学校の先生には事前にしっかりと伝えておくとういでしょう。

そうすると学校側で準備が出来て、手ぶらではなく、コーナー別に欄を作るとメモを取ったりできます。

また、事後にも学校に帰った後も振り返りもできます。
学校のスマホ、タブレット等も活用して、授業中に学習できる資料を渡し、活用してもらおうとよいのではないのでしょうか。

●座長
城下先生の意見は次のタスカルVRとも関連するので、次の（3）の説明へと進めていただきます。

●事務局
タスカルVRについて、ご説明をさせていただきます。
28 ページをご覧ください。
コロナ禍で来館ができない状況の中で、WEB 環境を活用して、ご自宅や職場などからも「あべのタスカル」を体感していただけるよう、防災体験学習エリア内を3DビューとVR（バーチャルリアリティ）でご覧いただける「タスカルVR」作成し公開しました。
ここで皆様にタスカルVRを見ていただきたいと思います。

【タスカルVR視聴】

29 ページをご覧ください。
今般のコロナ禍の影響を受け、あべのタスカルが臨時休館、消防署見学の中止など小学校において校外学習が実施できない状況となっております。
また、コロナ禍を受けて大阪市内の全小学校においてオンライン授業が可能となりました。
当局としましてこのWeb環境を活用して、防災学習ができないかと考えた結果、今後小学校でのWeb環境の実態などを調査し、「タスカルVR」をはじめ、消防局及び消防署が作成した防火防災用のWeb教材を小学校で活用できるか検証を行うこととしております。
皆様にも「タスカルVR」の活用方法について、ご意見をいただければと思いますので、ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

●座長
今はコロナの情勢で来てもらうことが難しいですが、今後は「現地での学習」と「WEB教材を用いての学習」のハイブリッドな運用を行うことで新たな可能性が膨らんでいくと思います。事務局よりタスカルVRの活用について、意見をお聞きしたいと要望がありましたので、皆様の意見をお願いします。

●池内
阿倍野防災センター見学後の事後学習に活用するのはいかがでしょうか。
コース案内中に問いかけ、回答を得るには時間がないので、がれきの街にアクセスして自分の住む街の危険性について考えるような教材を事後学習資料として提供するのでしょうか。
また、志の高い先生に御協力をいただき、優良事例として紹介することも良いと思われれます。

●座長
教育委員会との連携も重要になってきますね。
学校に戻ってから再度学習することで、学びの深さが何倍にもつながっていくと考えられます。

●城下
これがあるから、来なくていいというものでは決してなく、予習、復習の教材として学習の前後に活用することが非常に効果的だと思われれます。
今までであれば学校の先生が下見に来られていたと思いますが、その時間を使ってタスカルVRを見てもらうことができるとより良い事前学習資料ができると思います。
また、可能であれば教材をコチラから提供することができればなおよいと思います。

●左川
逆に阿倍野防災センターでリアルに体験できないこと、見ることができないことを、CGなどを作って見てもらうことはいかがでしょうか。このVRを見ることの付加価値をつけられるように。また、阿倍野防災センターで得た知識を深めたり、振り返ったり、事後学習に使えるコンテンツがあると良いと思います。

●事務局
先生に活用していただけるプログラムや子どもたちが自ら考える動画などをアップすることは可能です。

●座長
学校との連携という部分がますます重要になってきますね。
それでは、残り時間も少なくなりましたので、（4）展示物等について、事務局より説明していただいたのち、全体の議論を続けたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

●事務局
30 ページをご覧ください。
展示物についてリニューアルオープンから2年が経過しましたが、現状不具合等は発生しておりません。

また、新型コロナウイルス感染予防対策として、一部のコーナーは使用できませんが、タッチペンを使用して、少しでも来館者が利用できるよう対応しております。

防災情報スクエア及びその周辺は、時期に応じて展示等も変更するなどして、今後も情報発信していきたいと考えております。

31ページをご覧ください。

コロナ禍で集客イベントも思うように開催できませんが、「海上保安庁・自衛隊・大阪管区气象台」などの防災機関と連携して、地震以外にも風水害や自然災害に対する知識の高揚を図ることを目的にイベントを計画しております。

以上、展示物などについて、お気づきの点がありましたらご教示いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

●座長

展示物等についても含め本日の事務局からの報告はすべて終わりました。

お気づきの点も含めて、皆さん一言ずつお願いします。

言い忘れたことなどがないようよろしくお願い致します。

●池内

この時期（コロナ禍）ですから、感染と防災は関連性をつけて考えてください。

あべのタスカルも（感染と防災の関連性）求められているはずなので、大規模な展示として変えるのではなく、その時々での情報発信、例えばコロナでは「避難にマスクがいますよ」などほんの一言でもいいので、その時に必要な言葉等を伝えることが重要だと思います。

タスカルのコアファンを増やしていただきたい。志の高い学校の先生、障がい者団体の方、災害時において感染症を防ぐ方法に悩んでいる方等は、VRをうまく活用していただけるのではないかと考えます。たくさんタスカルに人が来て頂くことも大事ですけど、教育施設であるということであれば、地域で防災の企画をする「コアファン向け」にワンボードメッセージを準備するなど、ポイント的なものがあればいいと思います。

●座長

ありがとうございます。

では、城下先生お願いします。

●城下

せっかく良い施設があり、学校のICT環境も整備されつつありますので、良いタイミングでタスカルVRができましたので、うまく事前事後の学習が進めば良いと思いました。

タスカルVRの中にリンクを簡単に貼り付けることができることも理解できたので、例えば、大阪市ホームページ内の他の学習ページにリンクすれば、学習範囲も広がり次に繋がること、このVRの中でできる可能性があると感じました。

●座長

ありがとうございます。

では、左川先生お願いします。

●左川

コロナ禍で施設を維持して、情報提供いくのは大変だと思いますし、防災に対する意識を高めることは必要だと思いますので、ぜひ今後もアピールしていただきたいと思います。

そのためにもキャラクターの活用等も必要になるので広報する上で、建物の外壁や正面入口の案内看板にも、防災センターと標記されていますが、なぜ、「あべのタスカル」として出さないのですか？

●事務局

施設の名称としては、「大阪市立阿倍野防災センター」として、様々な講習会等で案内を出しているため、現状外壁等の標記について変更は難しいと思われま。

正面入口の自動扉付近には、「あべのタスカル」として現状は、案内（看板）を出しております。

●座長

リニューアルしてから「タスカル」という名称は、非常に重要で「助かる」、「助ける」など、みんなが助かるという単なる語呂合わせだけでなく、意味のある名称にもなっておりますので、これからも「あべのタスカル」という名称もドンドン広げていただきたいと思っております。

限られた時間の中で、たくさんのご意見が出て事務局としても宿題が多くなりますが、結論から言いますと全部に対して、百点満点の答えを出すことは難しいと思っておりますが、日々の中で大切なことに関しては、少し時間をかけても構いませんのでしっかりと検討し、日々前進することが重要ですので事務局でしっかりと検討してください。

それでは事務局に進行をお返しします。

●事務局

今回の会議については、指定管理者から提出される令和3年度の事業報告書、来館者の皆様からいただいた意見やアンケート、指定管理者等からの提案された内容を基に会議資料を作成し開催させていただきましたと考えております。

開催時期につきましても、今年度と同様の時期を考えておりますのでよろしくお願い致します。

本日は、熱心なご議論をいただきありがとうございました。

今回、委員の皆様からいただいたご意見をもとに、指定管理者とも協議調整のうえ、今後もあべのタスカルタスカルの運営をよりよいものにしていきたいと思います。

これを持ちまして、第2回あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議を閉会させていただきます。

皆様今日は、ありがとうございました。